

プレス発表



大学入学者選抜に関する
CBT活用連携

令和6年7月9日
神田外語大学
国立大学法人佐賀大学
国立大学法人電気通信大学
独立行政法人大学入試センター



神田外語大学



SAGA UNIVERSITY
国立大学法人

佐賀大学



国立大学法人
電気通信大学
The University of Electro-Communications



独立行政法人
大学入試センター
National Center for University Entrance Examinations

「大学入学者選抜における CBT の活用の推進に向けた連携協力に関する協定」 の締結とキックオフシンポジウムの開催について

このたび、神田外語大学（千葉県千葉市、学長：宮内 孝久）、佐賀大学（佐賀県佐賀市、学長：兒玉 浩明）、電気通信大学（東京都調布市、学長：田野 俊一）及び大学入試センター（東京都目黒区、理事長：山口 宏樹）との間で、「大学入学者選抜における CBT（Computer Based Testing）の活用の推進に向けた連携協力に関する協定」（以下、本協定）を締結いたしました。

1. 協定の名称

「大学入学者選抜における CBT の活用の推進に向けた連携協力に関する協定」

2. 協定締結日

令和6年6月30日

3. 協定締結の目的

本協定は、締結機関の連携協力により、大学入学者選抜における CBT の活用を更に推進することを目的とし、ひいては CBT という新しい試験の在り方に対する社会全体の理解の促進に寄与することを目指すものです。

なお、本協定は、広く大学入学者選抜の改善に資することを目的としており、大学入学共通テストなど締結機関が実施している試験の実施方法を直ちに改めるためのものではありません。

4. 本協定に基づく連携協力事項

次の事項について、連携協力します。

- （1）受験環境の確保やトラブル等の対応体制の構築をはじめとする CBT の実施に係る知見の共有や負担軽減に関すること。
- （2）大学間の共同的な取組による新たな CBT の活用可能性の拡大に関すること。

(3) CBT に対する社会全体の理解の促進に関すること。

(4) その他本協定の目的を達成するために必要な事項に関すること。

5. 協定締結の背景

大学入学者選抜における CBT の活用には、紙のテストにはない多様な出題・解答形式の実現、入試業務の DX 化及び遠隔地の受験者獲得等多くのメリットが期待されています。実際には、総合型選抜・学校推薦型選抜など、各大学の独自性が発揮できる小規模な選抜区分において、すでに CBT の導入に成功している大学や、将来における活用を目指している大学があり、実施に関する知見やノウハウが蓄積されつつあります。しかし、受験環境の確保、トラブルへの対応体制の構築、社会の理解など、紙のテストとは異なる細やかな検討事項があり、これらを一つの大学等のみで解決し、実現していくのには困難を伴う状況があります。

そのため、CBT の導入大学と大学入試センターが手を携え、今後の CBT の更なる発展を目指して、今回の協定締結に至りました。

6. キックオフシンポジウムの開催

具体的な取組の一つとして、来る令和6年8月21日(水)に、本協定の締結機関によるキックオフシンポジウム「CBT が拓く大学入学者選抜の新たな地平：大学が自ら運用できる CBT の新しい枠組みを目指して」を開催いたします。参加をご希望される方は令和6年8月6日(火)までに、本協定に係るウェブページ(下記 URL)へアクセスし、キックオフシンポジウム参加申込フォームからお申し込みをお願いいたします。皆さまのご参加をお待ちしております。

URL : <https://www.cbt.dnc.ac.jp>

公表資料

○CBT 活用連携 具体的な活動内容

○CBT 活用連携協定 キックオフシンポジウム チラシ

連携協力の背景・目的

- CBTには多くのメリットが期待され、既に導入している大学がある一方で、受験環境の確保、トラブルへの対応体制の構築、社会の理解など、紙のテストとは異なる細やかな検討事項があり、これらを一つの大学等のみで解決し、実現していくのは難しい。
 - ➔ 既に導入している大学と大学入試センターによる以下のような連携協力を通じて、CBTの活用を更に推進し、ひいてはCBTという新しい試験の在り方に対する社会全体の理解の促進への寄与を目指す。

大学入学者選抜をCBTで実施する大学の共通課題

作題 紙のテスト以上に、問題の作成・点検に労力がかかる。

当日 試験の進行手順やトラブル対応方法を理解した試験監督者の研修に手間がかかる。

準備 受験者端末の保守・管理や、設定の確認、外部接続機器の管理などに労力がかかる。

CBTシステム システムの保守・管理やバージョンアップ対応に苦慮している。

連携協力事項

(1) CBTの実施に係る知見の共有や負担軽減



新しくCBTに挑戦したい大学向けの
ガイドライン整備

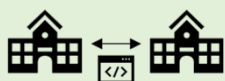
- CBT導入時の検討事項リスト
- 課題解決事例集 など



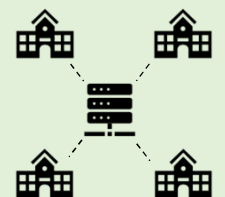
標準マニュアルの作成

- 問題作成関連マニュアル
- 試験実施関連マニュアル など

(2) CBTの活用可能性の拡大



試験問題の共有・流通に向けた
ルール作りや工程表の作成



複数の大学による
問題バンクの構築に向けた
計画の立案

(3) CBTに対する社会全体の理解の促進



国際技術標準に準拠した
CBTシステムの体験機会の提供



CBT先行事例のわかりやすい発信



シンポジウムや研修などの開催

活動スケジュール

2024年夏頃

2027年3月

(1) CBTの実施に係る 知見の共有や 負担軽減

- 連携大学がCBTを導入したときの懸案事項や直面した課題を整理

➤ **CBT導入時の検討事項リスト**
課題解決事例集 など

- 連携大学のCBT関連マニュアルの特徴や共通点・相違点を分析

➤ **問題作成マニュアル、
試験環境準備マニュアル** など
必要なものについて、フィージビリティ調査を実施

➤ **試験実施マニュアル、
試験監督者マニュアル** など
必要なものについて、フィージビリティ調査を実施

(2) CBTの活用可能性の 拡大

- 試験問題の共有・流通に向けたルールや次期活動の工程表について検討

➤ **CBT用試験問題の共有・流通に関するルール[案]**
試験問題の共有・流通を促す次期活動の工程表

- 問題バンク型CBTを活用した入学者選抜イメージの具体化

➤ **問題バンク型CBTを活用した入学者選抜のイメージ**

(3) CBTに対する社会全 体の理解の促進

- キックオフシンポジウムの開催
活動目的や具体的な活動内容を広く周知

- シンポジウムの開催
活動の進捗状況を周知

- シンポジウムの開催
活動の進捗状況を周知

- 国際技術標準準拠のCBTシステムに
共通テストの過去問などを搭載



- 締結機関への体験機会の
提供・課題洗い出し



- 他大学の入試担当者等への
体験機会の提供・課題の洗い出し



大学入学者選抜における CBT の活用の推進に向けた
連携協力に関する協定
キックオフシンポジウム

CBT が拓く 大学入学者選抜の 新たな地平

大学が自ら運用できる
CBT の新しい枠組みを目指して

2024.8.21 水

13:00 ~ 16:00

Zoom ウェビナー配信 | 定員 400 名

※ 定員となり次第、受付終了とさせていただきます。

シンポジウムの詳細は、次のページをご覧ください



参加申込

8月6日(火)までに
申込フォームから
お申し込みください。
<https://forms.gle/PtNHws3LMmSKMLPF8>

主催

独立行政法人大学入試センター

共催

神田外語大学
国立大学法人佐賀大学
国立大学法人電気通信大学

お問合せ先

大学入試センター 試験企画部試験企画課

✉ info_cbt@cen.dnc.ac.jp

8月16日以降、事務局からウェビナー
情報と当日資料のダウンロードリンクを
お送りいたします。

シンポジウムの趣旨

神田外語大学・佐賀大学・電気通信大学と大学入試センターはこのたび、「大学入学者選抜におけるCBTの活用の推進に向けた連携協力に関する協定」（以下、CBT活用連携協定）を締結いたしました。CBTを入学者選抜にいち早く取り入れた連携大学と大学入試センターが手を携え、CBTの安定化と普及、さらにはCBTの活用を通じた新しい入学者選抜制度の構想という「新たな地平」をめざします。

CBT活用連携協定では、CBTの実施・運営に関するノウハウを共有しながら、これから新たにCBTを導入したいと考える大学のガイドとなる資料を作成し、公表していきます。また、複数の大学が協力してはじめて実施できるCBTのあり方を具体的に議論し、実務面を含めた課題整理や地に足のついた工程表づくりなどにも取り組む予定です。

本シンポジウムでは、CBT活用連携協定の船出を機に、あらためて連携大学におけるCBTの現況を理解しながら、個々の連携大学が抱える課題を「個々の大学に特有の課題」と「複数の大学が共同して取り組むべき課題」に整理します。そのうえで、後者の課題にCBT活用連携協定としてどのように取り組むことがよいのか、大学入学者選抜の将来像に照らして複数の大学がいつそう協働するための仕組みをどのように構築するのか、示唆を得ます。

プログラム

- 13:00～13:10 **大学入試センター 理事長挨拶**
山口 宏樹 独立行政法人大学入試センター 理事長
- 13:10～13:40 **基調講演**
「現代の大学入学者選抜を取り巻く課題の全体像とCBTの活用可能性
—少子化、多面的・総合的評価、CBT—
川嶋 太津夫 大阪大学 スチューデント・ライフサイクルサポートセンター長／特任教授
- 13:40～14:00 **CBT活用連携の目的と具体的な活動内容について**
寺尾 尚大 独立行政法人大学入試センター 研究開発部 准教授
- 14:00～15:00 **連携大学におけるCBTの現況と課題・連携への期待**
「CBT実践の7年間—成果と課題、そして展望—」
西郡 大 佐賀大学 アドミッションセンター長
「世界標準を満たす電気通信大学のCBT入試」
植野 真臣 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 教授
「コロナ禍で実施のオンライン入試を振り返って—課題と今後への期待—」
長田 厚樹 神田外語大学 事務局長補佐
休憩(10分)
- 15:10～16:00 **指定討論・パネルディスカッション**

パネリスト	西郡 大・植野 真臣・長田 厚樹
指定討論	川嶋 太津夫
司会	寺尾 尚大

連携大学のこれまでのCBTに関する実績や検討状況



神田外語大学（私立）

新型コロナウイルス感染症対策として、令和3年度選抜で遠隔型CBTを実施。オンライン試験で入学した学生へのアンケートを実施し、受験環境等に関する意見を取りまとめた。その後、小規模の留学生選抜で遠隔型CBTを継続。



佐賀大学（国立）

平成30年度選抜から、誤答した問題を再解答できる「基礎学力・学習力テスト」、翌年度から動画等を用いた「思考力・判断力・表現力を問うテスト」、「英語技能テスト」を開発。大学試験場型CBTで、講義室にタブレットを配付し実施（総合型選抜・学校推薦型選抜等）。



電気通信大学（国立）

令和7年度選抜から、総合型選抜・学校推薦型選抜で教科「情報」を中心とした大学試験場型CBTを実施予定。国際技術標準に準拠。基礎学力の程度を合否判定に利用し、入学後のCBT学力検定とデータ連携させて教育改善に活用。